

親愛なるお客様

昨今世界や日本の各地で様々なでき事が発生しており、皆様のミッション、活動がいかに厳しいものかを思い知らされ、日々懸命に安全運航に貢献されている皆様に対し尊敬の念に堪えません。例年、穏やかな春が訪れ過ごしやすい季節になりますと様々な活動が増えてきます。皆様のミッションが引き続き好調で安全飛行が行われますようお願い申し上げます。

ビジネスに目を向けますと航空業界はコロナ渦を完全に脱し経済活動が戻ってきています。これは今年2月、アナハイム(米)で開催されたHeli Expo 2024でも実感することができました。世界のオペレーターはここ数年で一番の自信を深め、エアバス・ヘリコプターズは155機の受注を発表することができました。とはいえ、すべての問題がなくなったわけではなく、航空業界全体ではサプライチェーンの問題をまだ抱えています。

一方、弊社既存製品にかかわる通常のサポート・サービスに加え、非常に順調に進んでおります未来のアーバン・エア・モビリティについてご紹介できることを嬉しく思います。また、RACER - ハイ・スピード・プロトタイプが初飛行に成功し、未来の回転翼機の技術への道を拓いたことをご報告できることも光栄に思います。数年以内に運用され飛行を楽しむことができると期待しています。

新年度を迎え、お忙しい毎日かと存じますが、季節の変わり目ですのでどうかご自愛ください。

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社
最高執行責任者・社長 ジャン・ルック・アルフォンシ



2024年4月25日 RACER初飛行



「2023年フォトコンテスト受賞作品
陸上自衛隊特別輸送ヘリコプターEC-225-LP」

CONTENTS

製品 / PRODUCT

エアバス・ヘリコプターズHeli-Expo 2024で155機受注
CityAirbus NextGenデビュー

H125/H130シリーズ向け
耐破壊性燃料システム(CRFS)の
レトロフィットに関するキャンペーン継続のご案内

サービス / SERVICE

お客様満足度向上に向けた取り組み
フロン排出抑制法について

訓練 / TRAINING

2024年度 設定訓練コース

航空安全 / AVIATION SAFETY

1. 安全推進活動
2. ヘリコプターの安全情報

インフォメーション / INFORMATION

本Newsletterアンケート

エアバス・ヘリコプターズHeli-Expo 2024で155機受注

エアバス・ヘリコプターズは、アナハイム(米)で2月に開催されたHeli-Expo 2024において、40機の確定発注を含む155機の受注を獲得したと発表しました。

これには英国のヘリコプター運航会社THCと8機のH125および10機のH145の確定発注を含む、最大120機に及び歴史的な契約も含まれます。エアバス・ヘリコプターズは、THCに加えてDRF Luftrettung社(独)からH145を最大10機を受注し、ヘリコプター救急医療サービス(HEMS)市場のリーダーとしての地位をさらに不動のものとしています。また、米国のHEMSオペレーターHealthNet Aeromedical Services社は、全機エアバス製のフリートに4機のH135を追加しました。



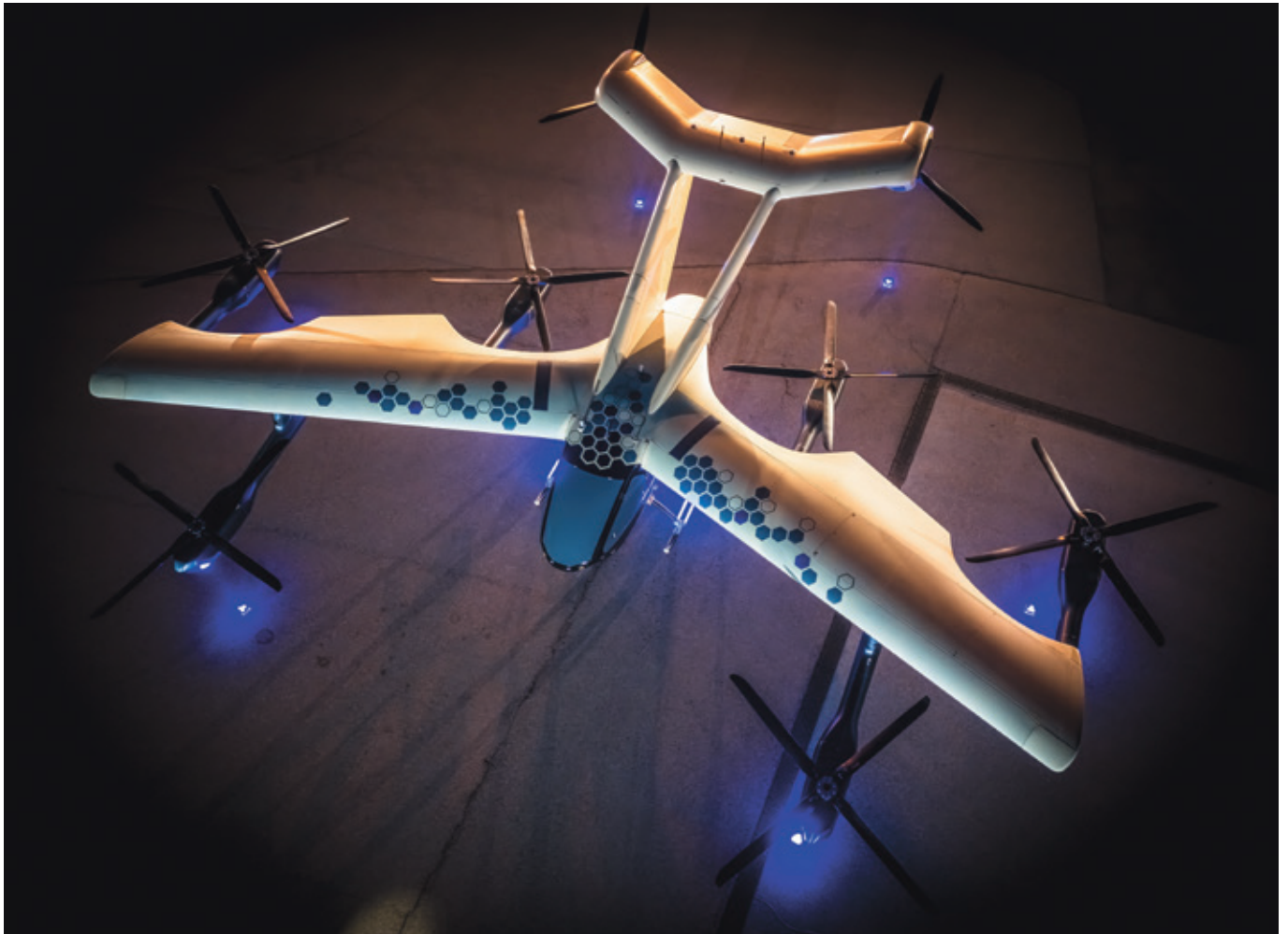
一方、カナダのツアーオペレーター、ナイアガラ・ヘリコプターズ社は6機のH130をフリートに追加し、Bristow社は成長するエネルギー市場向けに最大15機のH135を発注しました。さらに、エアバス・ヘリコプターズとLCI社は、長年の関係を強化する2つのパートナーシップを発表しました。

今年のHeli-Expoにて155機の発注の確約と40件の確定発注を頂くことができ私たちのチームと製品にご信頼を頂きましたことを大変有難く思います。Heli-Expoは、お客様や業界関係者と交流するまたとない機会です。2023年、当社のグローバル・フリートは300万飛行時間を達成しました。お客様からのフィードバックは不可欠であり、お客様の重要な、時には人命を救うようなミッションを強化するために、当社のソリューションを継続的に改善する原動力となっています。」とエアバス・ヘリコプターズのBruno Even CEOは述べました。

サポート&サービスにおいては、エアバス・ヘリコプターズは、エア・センター・ヘリコプターズ(米)と18機のH225をフルカバーするHCare契約を発表しました。さらに、チェコ共和国の救急医療サービスプロバイダーであるDSAは、8機のH135をカバーするHCare PBH契約を締結しました。また、機体の運航・整備計画をサポートするFlyScanサービスは、GPMS社との提携により、より多くの運航会社とHUMSデータの共有が可能になりました。これにより、より多くのオペレータが初期の段階から各機体にフィットした技術的提案を受けることができるようになりました。

また、エアバス・ヘリコプターズはHeli-Expo期間中、持続可能な航空燃料(SAF)を30%使用したH145とH125によるデモフライトを実施し、可能な限りSAFを使用するという会社としてのコミットメントを実践しました。

CityAirbus NextGenデビュー



エアバスは、年内に計画している初飛行に先立ち、完全電動式のCityAirbus NextGenプロトタイプを3月に一般公開しました。翼長約12メートルの2トンクラスのCityAirbusは、航続距離80km、巡航速度120km/hを目標に開発されており、大都市での様々なミッションに最適な機体となっています。

この一般公開は、ドナウヴェルト(独)に電動垂直離着陸機(eVTOL)のシステム試験に特化した、新しいCityAirbusのテストセンター開設と同時に行われました。このセンターは、エアバスの先進的な航空モビリティ(AAM)への継続的かつ長期的な投資の一環です。2023年12月のCityAirbus NextGenの電源オンとともに運用を開始し、年内のプロトタイプ初飛行までに必要な残りのテストを行います。テストには、8つのローターを持つ電気モーターと、飛行制御やアビオニクスなど機体のシステムが含まれます。

「CityAirbus NextGenをロールアウトすることは、AAMと将来の製品・市場に向けた重要かつ計画を実現する第一歩です。私たちのコミュニティ、チーム、そして世界中のパートナーに、これを実現できたことに感謝します。」とエアバスのアーバン・エア・モビリティ部門責任者であるBalkiz Sarihanは述べています。

機体開発と同時に、エアバスは世界中の企業との交流、協業を拡大し、AAM市場を成功させ、実現可能なものにするために独自のエコシステムを構築しています。エアバスは最近、大手航空関連企業のLCIと、AAMの3つの核となる戦略、商業化、資金調達におけるパートナーシップ戦略と、ビジネスモデルの開発に注力するためのパートナーシップ契約を結びました。

H125/H130シリーズ向け 耐破壊性燃料システム(CRFS)の レトロフィットに関するキャンペーン継続のご案内

CRFSのレトロフィットに関しまして、特別価格キャンペーンを2024年末まで継続することに致します。

2021年よりご案内しておりますが、現在運航中の全てのH125 (AS350)/H130 (EC130)ヘリコプターには、事故発生時の生存率を向上させることが可能なFAA FAR / EASA CS §27.952に準拠したCRFSがSBまたはSTCにより装備可能です。現在ではCRFSは全てのH125およびH130の新造機に標準装備されています。

価格、納期、その他の条件等詳細につきましては、カスタマーサポート部の担当者までお問い合わせください。是非ご検討の程、宜しくお願ひ申し上げます。



お客様満足度向上に向けた取り組み

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンでは、より良い製品とサービスを提供し、お客様にご満足いただくよう日々努めております。Newsletter 36号で、2023年実施顧客満足度アンケートの結果に対する取り組みについて、お知らせいたしました。今号では、その一環としてAirbusWorld (旧称Keycopter) の説明会と、e-Orderingの導入についてお知らせいたします。

1. AirbusWorld使用方法説明会

現在、AirbusWorldをより便利にお使いいただけるよう、弊社のテクニカルサポート担当者がお客様を訪問し、日本語で説明会を実施しております。日本語の使用法マニュアルと、日本語での説明に、ご好評をいただいております。ご要望がありましたら、お気軽にご連絡ください。

【AirbusWorld説明会に関する問い合わせ】

テクニカルサポート部 広渡 (Tel: 090-1699-2490, Mail: ryosuke.hirowatari@airbus.com)
エラネ (Tel: 03-6871-8228, Mail: harumi.heranney@airbus.com)

2. e-Orderingについて

e-Orderingは、AirbusWorldの機能の一部である、オンライン部品注文システムです。既に50社以上の国内のお客様に導入いただいております。e-Orderingの導入により、新品部品の在庫状況、価格、配送状況の確認、見積取得、発注などがオンラインで可能になります。今後導入を希望される場合は、弊社顧客スペアサポート課までご連絡ください。

【e-Orderingに関する問い合わせ】

顧客スペアサポート課 片山 (Tel: 03-6871-8262, Mail: shinichi.katayama@airbus.com)
赤澤 (Tel: 03-6871-8263, Mail: eriko.e.akazawa@airbus.com)

今後、その他のお客様満足度向上に関する改善事項につきましても、Newsletter等で、進捗をご報告してまいります。

【お客様満足度向上の取り組みに関する問い合わせ】

顧客満足担当 小野寺 (Tel: 03-6871-8218, Mail: yuki.onodera@airbus.com)

フロン排出抑制法について

フロン排出抑制法に対応するため各機種のコンプレッサー出力をNewsletter Issue 20にて2020年にご紹介しましたが、以来日本で運航を開始したBK117-D3及びH160のコンプレッサー出力を含め改めてご紹介します。

型式	ベンダー	部品番号又はモデル名	簡易点検	定期点検
EC135	AAC (Keith)	Electrical AC	○	
	Airbus Helicopters	Mechanical AC	○	○
BK117-D2	Airbus Helicopters	Mechanical AC	○	
BK117-D3	Airbus Helicopters	Mechanical AC	○	
EC120	Keith	P/N : 120-450-1 (Compressor P/N ES10172-1)	○	
AS355 N	Enviro Systems Inc.	900H507-2	○	
AS350 B/B1/BA	Aero Engineering	5-AS350-19	○	
AS350 B2	Aero Systems Inc.	5-AS350-19	○	
AS350 B2/B3	Enviro Systems Inc.	5-AS350-34	○	
		350A500-5	○	
EC130	SANDEN	TRS090R3015	○	
	SOCIETE NOUVELLE de CLIMATISATION	200F33 (equivalent of TRS0903015)	○	
AS365 N	LIEBHERR	789XXX	○	
AS365 N1/N2	LIEBHERR	791AXX	○	
AS365 N2	LIEBHERR	791CXX	○	
	OMEGA (SANDEN)	SD508 (20-10122)	○	
AS365 N3	LIEBHERR	773B010000	○	
EC155 B/B1	SECAN	2190353	○	○
H160 B	SOCIETE NOUVELLE CLIMATISATION	2190353	○	○
EC225 LP	MAHLE INDUS. THERMAL SYSTEMS (BEHR GMBH&CO)	EM765		
		S1040 (cockpit & cabin)		
	SECAN	18-90330-1 (cockpit) 17-90330-1 (cabin)	○	○
AS332 L1	LIEBHERR	788AA010101	○	○

2024年度 設定訓練コース

2024年3月末時点で予定している2024年度の訓練コース空き状況をご案内いたします。ご興味のあるコースがありましたらお問い合わせをお願いします。

(お申し込みには受講要件を満たしている必要がございます。また最少催行人数は2名となっておりますので、これを満たさない場合は訓練を実施しない場合がございます)

各コースとも、訓練開始までに空席がある場合、弊社社員が聴講生として参加する場合がございます。ご了承ください。 (座学の最大受講人数は8名を基本としております)

■ 操縦士訓練

コース名		期間(日程は変更となる場合がございます)	受講要件	申込可能	備考
EC135	型式内移行訓練 (T1,2,3→Helionix機)	学科：2024年6月3日～6月7日予定	B	○	(注1)
EC135	ガイドライン訓練 (T2+, P2+)	学科：2024年5月23日～5月31日予定 FFS：2024年6月3日～6月7日予定	A	○	
EC135	ガイドライン訓練 (Helionix機)	学科：2024年6月24日～7月3日予定 実機：別途相談	A	○	(注1) (注2)
AS365N3+	型式限定変更座学訓練	学科：2024年6月10日～6月20日予定	A	○	(注1) (注2)
H225	型式限定変更座学訓練	学科：2024年7月1日～7月12日予定	A	△	(注1)

受講要件:

A：有効な技能証明書と航空身体検査証明書および陸上多発タービン機の等級限定

B：要件Aに加えて、EC135T1, P1, T2, P2, T2+, P2+, T3, P3の操縦経験を有する

(注1)：座学訓練終了後、海外FFSを使用した訓練、お客様基地でお客様保有の機体を使用した実機訓練や実地試験支援をご希望の場合は別途お問い合わせください。

(注2)：座学訓練のみ受講を希望される場合は別途お問い合わせください。

■ 整備士訓練

コース名		期間(日程は変更となる場合がございます)	受講要件	申込可能	備考
AS365N3+	一等航空整備士 OEM訓練 (座学+実技)	学科：2024年5月13日～5月31日予定 実技訓練：2024年6月3日～6月6日予定	C または E	△	(注2)
H225	型式限定変更座学訓練	学科：2024年6月3日～6月21日予定	C または E	○	(注2) (注3)
H135	型式内移行訓練 (T1,2,3→Helionix機)	学科：2024年6月3日～6月7日予定	D	○	
H135	ガイドライン訓練 (T3/P3まで)	学科：2024年6月24日～7月3日予定 実技訓練：2024年7月4日～7月10日予定 FFS試運転：1人当たり3回、2日想定、 日程は別途ご相談	B	○	(注1)

受講要件:

- A：回転翼航空機ライセンス又は同等の知識(6ヶ月以上の整備経験を有する)
- B：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上
- C：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上を所有かつ一等航空整備士学科試験に合格、有効期間内である事
- D：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上、EC135T1, P1, T2, P2, T2+, P2+, T3, P3の整備経験を有する
- E：一等航空整備士(回)技能証明

(注1)：座学訓練のみ受講を希望される場合は別途お問い合わせください。

(注2)：座学訓練終了後、実地試験受験支援までの訓練をご希望の場合は別途お問い合わせください。

(口述対策訓練、お客様保有の機体を使用した訓練等)

(注3)：座学訓練終了後、実地試験受験支援までの訓練をご希望の場合は実技訓練(フランスにて実施)が必要となりますので、別途お問い合わせください。

お問い合わせ先:カスタマーサポート部 西岡 (hisao.nishioka@airbus.com)

または各CSM (カスタマーサポートマネージャー) まで

1. 安全推進活動

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンは、ヘリコプターメーカーとして安全推進活動を展開しています。関連省庁と連携した各種取り組み(航空局主催の「小型航空機に係る安全推進委員会等」)に積極的に参画し、安全運航の確保に貢献すべく取り組んでいます。

また、航空安全ロードショーを開催し、安全文化の醸成活動(ヒューマンファクターズ訓練/コンサルティングを含む)を推進しています。2016年以降、計142回(2023年は17回)開催しております。

航空安全ロードショー開催については、お客様のご要望等をお聞きしながら、計画及び開催をさせていただきますので、是非、お気軽にお問い合わせください。

2. ヘリコプターの安全情報

世界で発生した事故やインシデント等に基づいた重要な教訓・安全情報等が、EASA Community Networkサイトの「Safety-Topics A-Z」にて紹介されています。エアバス・ヘリコプターズもそのメンバーとして安全推進活動を展開しています。

その中から今回は、特に低高度運航時における重大な危険要素の1つであり、統計的に死亡事故につながる可能性が高い「Cable Collisions(ケーブルとの接触)」に関して、EASAアニメーションビデオと「ケーブルへの衝突回避の実践方法」を紹介致します。

<https://www.easa.europa.eu/community/content/safety-topics-z>

<https://www.easa.europa.eu/community/topics/cable-collisions>

1) EASA アニメーションビデオ (Helicopter Wire Strike Avoidance)

ビデオの概要:約3分の短い動画(音声:英語、字幕:英語)でケーブル衝突回避方法を分かりやすく紹介しています。

特に、「太陽光による視界不良により、結果として最低高度を下回り、前方の電線に危険なほどに接近」、「事件事例紹介: AS 350 BA (2015 / 7 / 30: カナダ)、EC 120(2013 / 3 / 3: スロバキア)」、「ケーブルへの衝突回避に関する5項目」は、ご参考になるかと思えます。



<https://www.easa.europa.eu/community/sites/default/files/2020-06/Rotorcraft%20Cable%20Collisions%20Animation-web.mp4>

2) ケーブルへの衝突回避の実践方法

低高度でミッションを行う回転翼航空機は、ワイヤー及び障害物との衝突リスクがある環境で飛行しており、これらへの衝突は致命的な事故につながる原因の1つです。多くの事故調査でも、「十分な知識を持つ経験豊富なパイロットでさえ、飛行エリアにワイヤーがないことの確認を忘れていたこと」が報告されています。

ケーブル衝突のリスクを軽減する取り組みを、「飛行準備と計画段階」、及び「飛行中」に分けて以下にまとめます。

「飛行準備と計画段階」

- フライト準備と予想はどのようなミッションでも事故防止の鍵であり、重要なミッションを行う際には、ミッショントレーニング、CRM、経験蓄積が不可欠です。
- 最新バージョンのマップを使用し、既知のケーブル等の障害物(輸送ケーブル、支線、スキーケーブル、電気ケーブル、通信ケーブル、ケーブルカー、スラックライン等、あらゆる種類のワイヤ類)を確認してください。但し、すべての障害物がマップに適切に識別されているとは限りません。
- 現在はワイヤーの検出・回避装置やワイヤーカッター等が開発されています。それらを積極的に搭載・活用してください。

「飛行中」

- 細いケーブルは見え難く、木やその他の障害物によって隠れてしまうことがあるので、特に注意してください。
- 危険な電線環境(通常500フィート未満)に降下する前に、より綿密な偵察を行ってください。
- ミッションに必要な低空飛行以外は意識して高度を保ちましょう。
低空飛行ミッション時は、特に、搭乗者全員でケーブル、支持構造、地形、障害物、他機の飛行状況を積極的に探すように努めてください。
- 気が散ることを避けてフライトに集中してください。
- ワイヤーに衝突したパイロットの約40%は、そこにワイヤーの存在は認識していましたが、それぞれの状況による視認性の問題により確認できていませんでした。



- 山岳地帯や丘陵地帯では、常に状況認識を継続し、飛行経路の両側およびあらゆる高さの障害物から十分な距離があることを確認して飛行してください。
- 道路、建物、丘や丘の頂上の塔の周りには電線が張り巡らされていることが予想され、塔、電柱、木々が切り取られた通路等を積極的に探してください。
- 意識を集中するようなミッションでは周囲の変化に気付くのが遅れることがあります。特に山岳地帯では、風向の変化、突風、悪天候や視界の悪化などにも注意してください。

<担当者から>

初夏を迎え、草木が生い茂っていく中で「ワイヤーの目視確認がより困難になる」と考えられますが、日本国内でも「ケーブルとの接触による事故」はこの時期に多く発生しています。今回の記事が皆様の安全運航の一助になれば幸いです。

上記の情報のほかにも多くの関連資料、ビデオがEASA Community Networkサイトで紹介されていますので、是非ご活用ください。

各種取り組みや安全情報のご依頼やご質問等がございましたら、竹内までご連絡ください。

(竹内(エクスターナル・セーフティー・オフィサー)078-306-4476)



本Newsletterアンケート

3月下旬にお願いしましたアンケートについて、たくさんのご回答ありがとうございました。

お時間を取ってお送り頂いたフィードバックを今後の紙面作りに活かしていきたいと思えます。

良いご意見もそうですが、ご指摘も大歓迎です。あらゆるフィードバックが私たち制作側の励みになります。

アンケート以外にもご意見やご要望、ご質問などありましたらお気軽に下記までご連絡ください。

information.ahj@airbus.com 編集担当者宛